

2011年3月11日(平成23年)午後2時46分 東日本大地震から 3週間が経過しました。平時から緊急時に備えておく“事”が必要で、これを 我々医療人の集まり 三師会(医師会・歯科医師会・薬剤師会)等と 地方自治・地域支援病院等がお互い 確認し合い、住民と密接な信頼関係を築く“事”。当然の帰結です。

下記 の内容は、“吉田町町長へ提示した文面”です。

吉田町 田村典彦町長 御机下  
前略

先日 3月16日、平成22年度 保健医療協議会の開催中止につき通達がありました。「町防犯まちづくり推進協議会」「交通安全対策委員会の表彰式」等は開催されたようですが、どんな状況でしょうか？ 討議すべき内容は 山積された状況です。

<中略>

十分な討議の時間は無いと思われませんが、開催中止決定であれば、最低限の必要事項として、先日お伝えした 以下 ~ ついて、更に追加として について、簡潔明瞭に 書面等で返答していただくと、我々の士気も向上するものと思われます。お願いします。

以前 委託で 医師会が行っていた“健康大学”の評価について  
新聞記事“15億円”の内訳について(11/2 保健医療協議会で提示)

“みらいエフピーの提訴”について

各種予防接種の 吉田町としての 補助のバランスについて

11月2日の 保健医療協議会の 録音・議事録について

榛原病院からのモービルCCUの稼働・運営状況について

災害発生時 我々医師団に伝えておくべき状況について(特にヨウ化カリウム、赤タミフル等の管理 緊急時の配給について)

我々の感覚といたしましては、行政 特に 貴方 町長 田村典彦氏と、我々医療人との間に、一定のギャップが在り、この溝を出来る限り埋めていく努力が必要に思われます。

<中略>

平成23年3月28日

医療法人康寿会 加藤内科医院院長 加藤寿夫

No.2011-3

のヨウ化カリウムの扱いについては 3月28日開催の 榛原医師会 吉田・榛原連絡協議会にて榛原医師会会長に“確”と伝え 地方自治トップと話されるとの事です。

また、この席では、「我々の医療圏での 地域支援病院での呼吸器科の先進医療が提供出来ない状況」、今回の東日本大地震について「今後の我々榛原医師会の援助隊の在り方」、「津波に対して『吉田町を除いて...』と 避難の勧告が無かった“事”についての賛否」、「土葬の穴が浅過ぎるのでは...」等が話題となり、榛原医師会広報に記録の必要性和 広く周知していただく重要性を鑑みて、この内容を投稿しました。

「今 この“事”の起こった、人の心の動いた時、国も 地方自治も 医師会も、組織トップが動くべし」と 申し上げる。報道のコントロールにより、「『“核” “放射能”によるリスク感』が、神の天災を受けた当事者である日本人よりも、欧米をはじめとする外国人との間で、逆転しているかのように見える」のは、私だけであろうか？ 第二次世界大戦中の大日本帝国大本営発表と同様、日本国の報道は “情報の隔離”から脱出していない そんな国なのか？

「冷静に真実を受け留め、的確で早急 そして実直な行動」これが 迫られている。康寿診報159号 送らせて頂きます。睦会は予定通り開催します。

平成23年4月1日 加藤寿夫

《平成23年4月 康寿診報 第159号 送付文》

ホームページが新しくなりました。<http://www.katoiin.jp> ぜひご覧ください。

裏面は 現在(68)を交信・執筆中の「雅寿の文言 ~ 」を 提示します。